【第一〇五号　二〇一三年　九月　五日発行】

福音の園だより

平成十八年度「高年齢者雇用優良事業所　協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイコのいきいきモーニング』取材放送
グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
３５０－００１６　埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人　福音の園・埼玉　事務局
☎０４９－２３０－１１１１（FAX２３０－１１１２）
福音の園®、Gospelgarden®は　有限会社シャロンの商標

理念・方針説明

一枚の写真から ― 尊厳を撮り続けて

グループホーム 福音の園・川越　ホーム長　杉澤　卓巳

左の広告で、めったに買わない『文藝春秋』を買い求めて読んだ（新年特別号・２０１２年１２月発行）。

写真機というものが発明されて以来、最も有名になった写真の一枚が「崩れ落ちる兵士」（1936年）。だが、この写真を撮ったとされるロバート・キャパ（1913-53年）は、それについて死ぬまで正確な説明をしようとしなかった（説明できない理由があった）。そのため、この写真に関して幾つもの謎が残されることになった。「これはいつのことなのか。ここはどこなのか。この兵士は本当に撃たれているのか。それをどのように撮ったのか」。

沢木耕太郎氏が現地に赴おもむき、関係者を取材しながら、コンピュータ映像技術（ＮＨＫ・ＣＧ制作ルーム）を駆使し、解析・検証究明していく様がＮＨＫテレビで放映された（本年二月三日）。

キャパがジャーナリズムへの道を「ペンではなくカメラ」に求める決意をし、やがて、実際に戦争を取材していくうちに、自分のできることが戦場の兵士の傷つく姿や銃後の市民の苦しむ姿を撮り続けていくことだ、と体得していく伝記文章に共感した。

入居者皆さんの生き様に、ピントを合わせ

毎月発行『福音の園だより』には、カラー写真で「毎月の風景」を同封しています。折々の活動風景をデジカメで撮り続けて「厳選した一枚、一枚」です。これを日付プリントして収めた「アルバム」とＣＤに記録保存。開園時より継続してまいりました。

過日、「簡易書留郵便」が届きました。開封すると「〇〇弁護士会」から「弁護士法第２３条の２に基づく照会の件（ご依頼）」文書でした。内容は「被相続人は生前、公正証書遺言書を作成。（中略）。遅くとも平成〇〇年頃には混合型認知症との診断をされており、遺言書作成時点における被相続人の遺言能力の有無の立証のため、本照会に及びました」。

早速、六年前のご入居時から看取りご逝去時までの関係記録を「保存箱」から取り出し、ご入居時に事前面談対応したケアマネジャー、ご逝去時のケアマネジャーと共に回答に向けた準備を始めました。

折々の活動を撮り続けた「アルバム」を開いたところ、ご入居の翌々月、「ゆでた蕗ふきの皮むき」「アジサイちぎり絵工作」「誕生者名（含む年齢）毛筆書き」スナップ写真【日付印字】が収められていました。

当時の記憶から、「認知症とは云え、しっかりしておられる」が撮影時の印象でした。「趣味は習字」―ご本人聞き取りから、同階ユニット「お誕生会・記念写真用」誕生者名毛筆書きを、「症状悪化」によりご無理になるまで「担当」していただいたのでした。

『高齢者福祉専門職として二二年目。さらに当ホーム管理者歴八年余り。高齢者介護の現場で「百人百様な認知症状」を観てまいりました。高齢者福祉専門職の職業倫理に基づいて申し上げることができます。平成〇〇年〇月〇日撮影「毛筆書き習字風景」写真をもって「遺言書作成時点における遺言能力は自明」と申し添えます』と回答しました。

※　※　※　※　※

『画一的な支援の押し付けにならないように、お一人ひとりの「生活づくりのパートナー」を目指します』。

（福音の園・川越　運営方針）

お一人ひとりの個性や残存能力に関心を寄せて、「その人中心の介護」実現のための「ケアプラン」を実行していく中で、「皮むき」や「ちぎり絵工作」「毛筆書き」風景を撮影していました。一心不乱に。その六年後、相続騒動に終止符を打つ「一枚の写真」になるとは知る由もないまま、Ｋさんの生き様・戦中戦後の波乱に富んだ、「人生の最終章における生活づくりのパートナー」を目指して、「尊厳にピントを合わせ」ひたすら撮り続けていたのでした。

沢木耕太郎　渾身のノンフィクション（３０９枚一挙掲載）

世界が震撼するスクープ ― キャパの十字架

戦争報道の歴史に燦然と輝く傑作「崩れ落ちる兵士」―。だがこの作品は本当にキャパのものなのか？　七十六年間封印されていた「真実」がついに明らかになる。

来訪歓迎

ボランティア体験プログラム

〇〇　〇〇様・〇〇　〇〇様・〇〇　〇〇様（川越市）

御礼

メロン・スイカ　〇〇　農園様（北海道〇〇町）